

科目分類	医療のコラボレーション教育			開講学科	全学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
18044	1	前期	必修	1	15
授業科目名 (英文)	ボランティア論 (Volunteer Outline)				
担当教員名	齋藤 信夫				
授業の概要及び到達目標					
<p>1995年の阪神淡路大震災では「ボランティア元年」と言われ、2011年の東日本大震災以降、ボランティア活動に対する関心はますます高くなりました。最近では小学校から奉仕の心やボランティア活動について学習実践し、「21世紀はボランティアの時代」といわれています。</p> <p>【授業の概要】ボランティアの背景、現状、課題など「ボランティアを学ぶ」と同時に多様な事例によって「ボランティアで学ぶ」ボランティア論として、市民社会の担い手としてのボランティアを理解し実践に結びつけ、ボランティアによる自己実現を図ります。毎回のリアクションペーパーでは考えをまとめて書く理解力と思考力文章力が求められます。</p> <p>【到達目標】1)新しい公共の実現にとって不可欠な、さまざまな社会的課題解決に取り組むボランティアについて学び、2)市民社会や医療保健の推進にとって不可欠な、ボランティアについての理解を深め、社会化し自立した医療者や教育者としての社会観を養い、コミュニケーションを豊かにし、3)ボランティアの本質である「共感」から「ホスピタリティ」と「社会性」そして自己実現を育むことを目標とします。</p> <p>【未来への確かな希望を持って生きる力】【自助/公助に次ぐ第三の助け合い共助】をともに学びあいます。</p>					
準備学習等					
<p>双方向の授業をするので、常に真摯な態度で臨むこと。</p> <p>ボランティア活動は日々の暮らしと深くかかわっているので、生活の中で、通学途中で「あれ?!」ということを大切にしてもらいたい。たとえば駅や交差点などにある点字ブロックは何のためにあるのか、それが本当に役立っているのだろうか。そんな社会的事象に疑問や不思議や関心を持ち、一緒に授業を作っていくために私たちが暮らす社会や世界に関心を向けること。毎日の新聞や町内会の掲示板など身の回りの情報や出来事に関心を持つことが社会を身近に感じる第一歩になります。</p> <p>事業計画に事前学習と事後学習を書いています、概ね90分程度で準備学習してください。</p> <p>”One for All , All for One”から【We are all one】</p>					
成績評価の方法	レポート評価 40% 毎回のリアクションペーパーの内容を評価 試験 60% 知識や理解度の確認とボランティアについての考察を評価				
テキスト	なし 授業概要については資料としてプリントを配布します				
参考図書	なし 日々のニュースに関心を持つこと 参考図書関連書籍を随時紹介します				
備考	○学生へのメッセージ 本講は座学なので、選択科目「ボランティア活動」を履修し実体験することが望まれる。 ○授業時のレポートは返却します、振り返り学習に活用する等よく復習してください。試験についても返却するので学びを確かなものにしてください。				

○オフィスアワーについて 質問などがあればリアクションペーパーに記入してください、ペーパーで返すか、授業で取り上げます。

## 授 業 計 画

「ボランティアは究極の娯楽」「ボランティアが動く、社会が変わる」という考えがあります、何故なのか一緒に考えていきましょう。

できるだけ一方通行の授業ではなく、講義、ワークショップ、討論、ビデオ視聴など多様な手法をもちい、皆さんとやり取りをしながら進める参加型授業を目指します。

### 第1回：科目説明、授業のルール、レポートと試験について

ボランティア活動のイメージをワークショップで探る

視聴覚教材「高校生のボランティア活動」（高校でのボランティア事例紹介）でボランティアの世界を知る

事前学習：マクドナルドが実施している長期入院児童の家族の支援活動を調べる

事後学習：高校生たちは何故ボランティアとして活動するのかをまとめる。

### 第2回：ボランタリズムの理念とサービスマーケティング

ワークショップ「ボランティアにとって大切なものは何」を考え、その可能性を探る

事前学習：点字ブロックや音の出る信号機は何のためにあるのかを考え整理する

事後学習：ボランティアの可能性をまとめる。

### 第3回：ボランティア活動の現状と課題

ボランティア活動の事例について多角多面的に考えあい、ボランティアの現状を考える

学校教育の中でのボランティア活動の現状と課題を主とする

事前学習：どんなボランティア活動があるかを調べ整理する

事後学習：ボランティア活動の現状と課題をまとめる。

### 第4回：ボランティア情報の検索とコンタクト インターネットを使って ※PC持参

医療現場や学校(養護)教育現場でのボランティアを検索する

事前学習：ボランティアとしてどんな活動をしたいかを整理確認する

事後学習：取り上げたボランティア活動について考察する

### 第5回：新しい公共を創り出すボランティア活動・NPO・NGOの概念と現状。

特定非営利活動促進法とその背景を理解する

事前学習：クラウドファンディング/こども食堂について調べる

事後学習：ボランティアを支える仕組みをまとめる。

### 第6回：各国のボランティア事情

韓国、中国、イギリス、アメリカなどのボランティアに対する政策や取り組みについて

### 第7回：災害とボランティア

被災者とボランティアの関係 学生が立ちあげた災害ボランティア団体

事前学習：災害時のボランティア活動事例を調べ整理

### 第8回：まとめ 生き方としてのボランタリズムとボランティアコーディネーション

ホスピタリティあふれる市民社会を目指して

社会的な出来事を随時授業に取り込むのでアップデートなものに変更することがあります

科目分類	医療のコラボレーション教育			開講学科	全学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
18045	1	前期	選択	1	30
授業科目名 (英文)	ボランティア活動 (Volunteer Activity)				
担当教員名	齋藤 信夫				
授業の概要及び到達目標					
<p><b>【概要】</b> 自分の興味や関心に基づいたボランティア実践活動を行うこと。          体験前の学び、体験を通じた気づき、体験の客観化と共有によって社会をより深く多角的に知り、社会性を身につけ、今後の学生生活や職業人としての人生に活かせるものを見出す。</p> <p><b>【到達目標】</b> ボランティア実践することによって「ともに生きる」ボランティア活動を理解するとともに、現代社会の課題や背景や取り組みについて具体的体験的に理解し、ボランティアの社会性と可能性を考えます。          体験することが目的ではなく、体験からの学びによる共生社会の具現化を目的とします。</p>					
準備学習等					
<p>家族援助活動(祖父母の介護など)とボラバイト以外であればボランティア活動の活動の対象とします。(高校の部活で先輩の指導や子ども会の世話なども)</p> <p>どんな活動をするのかは各自で考え、選び、交渉することになります。身近な地域の情報(「社会福祉便り」、「ボランティアセンターニュース」など)をこまめに読んだり、関心ある領域、課題について調べることによって、それらに取り組んでいるボランティアやNPOが見つかります。ボランティア論の4回目ではインターネットを使ってのアクセスについて学習します</p> <p>大切なことは単にボランティアを体験することではなく、どんな課題に取り組む、何をするのか、ひれが社会的にどんな意味をもたらすのか、活動の中で考えることが肝要です。          相談は随時メールなどで対応します。気軽に相談してください、サポートします。</p>					
成績評価の方法	活動計画書(30%)と活動報告書(40%)と報告会レポート(30%)を評価する 事前と事後の授業の欠席は単位を認めない				
テキスト	なし 「ボランティア活動はじめの一步」のプリントを配布します				
参考図書	ボランティア活動先に関連する図書・資料については授業及びメールで随時紹介します				
備考	相談や質問は「ボランティア論」「ボランティア活動」の授業終了後やメールなどでも対応するので、遠慮なく声掛けしてください。 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。				

## 授 業 計 画

## 活動前の集中講義

1. ボランティア活動の基礎知識①ボランティアする側とされる側について/安全対策
2. ボランティア活動の基礎知識②マナーと活動のための留意事項
3. 活動計画の作成に向けて
  - どんな活動を（どこで、何をするのか）、どのような形態・時間ですか
  - ※活動計画を作成（計画書が評価対象となります）
  - 前期終了日までに BOX に提出
  - （活動先や活動内容の変更は認めますが、変更理由を報告書裏面に記入すること）

## ボランティア活動実践（夏季休暇中または休日、授業の空き時間など）

20 時間以上 30 時間程度 出来れば体験で終わることなく継続的に続けて欲しい  
 3 日以上は活動すること 一人でしても、仲間と一緒にでもかまいません  
 ボラバイト(アルバイトの要素を含む活動)と家族介護等は対象外とします  
 趣味や特技を活用した活動や苦手克服のための活動なども可能

〈参考〉病院や福祉施設での活動が多いが、母子父子家庭の児童への学習支援/日本語指導/食育の指導助手/援農作業/障害児者へのスポーツ指導補助/ジャズフェスティバルの運営/サマーキャンプの支援-調理や野外活動/孤児院や学校建設-海外で/植林/被災地での支援 などなど

※実習予定先や海外でのボランティア活動を計画する場合は教務部に相談すること  
 実践の中で目に見えるもの、見えないものから社会の実相と自己を再発見

※活動を終えての活動報告書を提出します（レポートが評価対象となります）

提出期限は夏休み明けの第一週

※保険について 皆さんが加入している大学の保険が適用されるが、  
 「ボランティア保険」にも加入することを推奨します

## 活動終了後の集中講義

活動報告者(グループ)は活動計画書をもとに 8/上旬に指名します(メールで連絡)

自己の活動実践の振り返り/仲間の活動からの気づきや学び. 発見

1. ボランティア活動体験のふりかえり
2. 「ボランティア論」「ボランティア活動」のまとめとしてのレポート作成
  - ※発表とミニレポートが評価に加算されます